

CASBEE[®]新潟 | 評価結果 |



■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2010年版
CASBEE-新築(簡易版)2010年追補版(BEI対応)
■使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.2.1)

1. 建物概要

建物名称 建設地 用途地域 建物用途 竣工年 敷地面積 建築面積 延床面積 階数 構造 評価の段階 評価の実施日	ナミックス本社拠点再編プロジェクトSTEP1(生産棟) 北区 濁川字浦通1249-1外 市街化調整区域 事務所, 工場, 2017年4月 予定 13,928.66 m ² 3,873.88 m ² 11,719.56 m ² 地上3F S造 実施設計段階評価 2016年2月5日	
---	---	--

2. CASBEE新潟の評価結果

<p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	A	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{57.6}{37.9} = 1.5$
--	---	--

3. 新潟市の重点項目の評価

重点項目	平均スコア	評価アイコン	項目名	コード	スコア
1. 長寿命化の取組み 誰もがずっと安心して生活するために	3.9		バリアフリー	Q2.1.1.3	3.0
			維持管理	Q2.1.3	5.0
			更新性	Q2.3.3	3.6
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産、思い出を守るために	3.4		耐震・免震	Q2.2.1	3.0
			信頼性	Q2.2.4	3.8
3. 大雨への取組み 大雨につよいまちづくりのために	3.0		雨水排水負荷低減	LR3.2.3.1	3.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	2.5		建物の熱負荷抑制	LR1.1	1.9
			自然エネルギー利用	LR1.2	3.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	4.7		節水	LR2.1.1	4.0
			リサイクル材の使用	LR2.2.4	5.0
			再利用可能性向上	LR2.2.6	5.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな田園空間を次世代に引き継ぐために	3.0		生物環境の保全・創出	Q3.1	3.0
			敷地内温熱環境の向上	Q3.3.2	3.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の魅力を伝承・創造していくために	4.5		まちなみ・景観への配慮	Q3.2	5.0
			地域性への配慮、快適性の向上	Q3.3.1	4.0

4. 新潟市の重点項目の配慮事項

- 長寿命化の取組み: 内装および外装仕上げにおける防汚性への配慮、ホコリのたまりにくい内装設計、主要設備機器の更新に配慮したルートおよびマシンハッチの確保
- 地震への取組み: 設備の信頼性の観点から通信手段の多様化を図っている
- 大雨への取組み: 調整池設置
- 自然エネルギーの取組み: PAL値の低減への配慮
- 資源循環の取組み: 節水器具およびリサイクル資材の採用、躯体と仕上げ材が分別可能
- 水と緑を活かす取組み: 建物利用者が自然と親しめる環境の確保
- 新潟のまちなみへの取組み: 近接するバイパスを与条件として、現況の景観に配慮したデザイン

CASBEE[®]新潟

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2010年版 | 使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.2.1)
CASBEE-新築(簡易版)2010年追補版(BEI対応)

評価結果内訳

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ナミックス本社拠点再編プロジェクトSTEP1(生産棟)	階数	地上3F
建設地	新潟県新潟市北区	構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	240人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	4,000時間/年
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年4月 予定	評価の実施日	2016年2月5日
敷地面積	13,929 m ²	作成者	沼中秀一
建築面積	3,874 m ²	確認日	2016年2月5日
延床面積	11,720 m ²	確認者	沼中秀一



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%
②建築物の取組み 97%
③上記+②以外の 97%
④上記+ 97%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです(kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.3

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.5

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.9

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.6

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		
総合 製造環境の確保、外部環境に対する配慮、省エネの3つの柱とする。		その他 設備機器のユニット化による合理的な施工計画
Q1 室内環境 屋光制御(ブラインド設置)、照度確保、取り入れ外気への配慮(給排気の位置および方位への配慮)	Q2 サービス性能 事務室の天井高2.5m以上、リフレッシュスペース確保、生産施設であることをふまえた適切な内装計画および照明計画、内装計画の事前検証の実施、防汚性に配慮した内装仕上げ・外装仕上げ、維持管理機能の充実、階高3.9m以上、主要設備機器の更新に対応したルートおよびマシンハッチの確保	Q3 室外環境(敷地内) 建物利用者が自然に親しめる環境の確保、近接するパイパスを条件とした建物デザイン、設計プロセスへの建物利用者の参画
LR1 エネルギー PAL値低減に配慮した外装計画、エネルギー消費量の計測と分析による管理体制の構築	LR2 資源・マテリアル 節水器具の採用、躯体と仕上げ材が分別可能	LR3 敷地外環境 大気汚染防止および汚水処理負荷抑制への配慮(排出基準の順守)、卓越風の考慮、駐車スペースの確保

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される